

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	77人	算数	77人	理科	77人
第5学年	国語	74人	算数	74人	理科	74人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

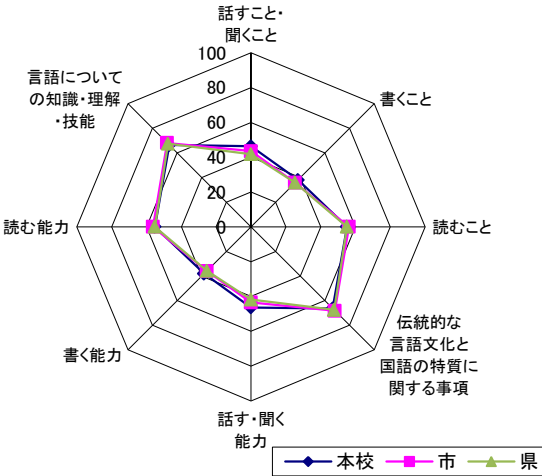
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	46.3	43.5	41.8
	書くこと	38.1	35.9	35.8
	読むこと	55.2	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.4	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	46.3	43.5	41.8
	書く能力	38.1	35.9	35.8
	読む能力	55.2	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	66.4	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

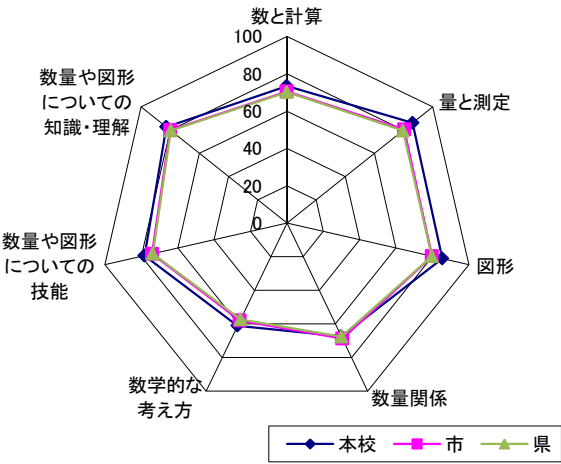
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	本校平均正答率は、46.3%で、市や県のそれより高かった。 ○話の中心に気を付けて聞いて意見を述べたり、進行に沿った話合いをすることは大体できている。	・今後も、互いの考えの共通点や相違点を整理して聞く力をつけるため、学習全般や生活の中で、短い言葉でメモを取る習慣をつけるように指導する。
書くこと	本校平均正答率は、38.1%で他領域に比べて低い。市や県のそれよりは高くなっている。 ○招待状の作成では二つの内容を一つにまとめて記述することはできた。 ●話合いを基に招待状に付け足す文を記述することができなかった。	・教科及び総合の時間、学校行事等で、招待状やお礼の手紙を書く機会があるので、それぞれの書き方を継続して指導する。 ・作文を書くときには、何についての作文を書くのか作文の趣旨を明確にとらえ、趣旨に沿った文が書けるよう指導する。
読むこと	本校平均正答率は、55.2%で県・市のそれと同等である。 ○物語文においては、登場人物の気持ちを想像して読むことができた。 ●説明文においては、文章と図を関連付けて読んだり、文章を要約したりすることができなかった。	・物語に興味・関心をもてるように、朝の読書タイムで様々な物語を紹介したり、学校図書館の積極的な活用を促したりする。 ・説明文の形式段落ごとの内容をまとめることができるような学習プリントを活用し、中心となる語や文をとらえて要点をまとめられるように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	本校平均正答率は、66.4%で他領域に比べて高いが、市や県のそれよりはやや低くなっている。 ○第3学年配当漢字の読みはできていた。 ●「遠足」という漢字を書くことができない児童が多かった。 ●国語辞典の使い方ができていなかった。 ●会話文における「」の使い方ができていなかった。	・今後、全授業において、習った漢字は積極的に漢字を書くことを意識させ、授業を行う。また、国語スキルタイムや宿題、自主学習の中で、既習漢字の読み、書きの練習を繰り返し行う。また、漢字辞書を使うことを奨励し、言葉の由来や漢字とへんのつくりの構成なども学習させるようにする。 ・国語辞典の使い方を確認すると同時に、単元の始まりにはなるべく国語辞典を使って意味調べをさせる機会を多くとるようにする。 ・作文用紙の「」の使い方を確認する。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.5	70.5	70.3
	量と測定	86.2	80.4	79.6
	図形	85.4	79.8	79.7
	数量関係	67.3	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	61.0	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	78.3	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	82.7	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

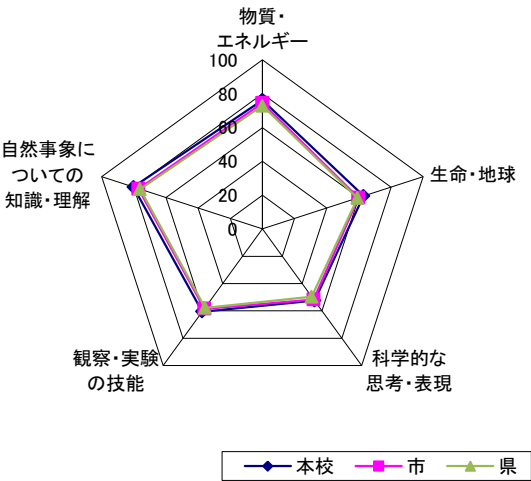
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校平均正答率は73.5%で県・市と比べやや上回っている。 ○繰り下がりのある4位数－4位数の計算では平均正答率92.2%であり、県平均よりも11ポイント近く上回っている。その他の計算問題も県や市の平均正答率より同等か上回っている。また、数直線の目盛を読み取り分数で答える問題についても県より約6ポイント高い。 ●整数を単位分数で表す問題では、本校正答率81.8%であるが県より約4ポイント低い。	計算力には個人差が見られる。時間がかかり過ぎたり、正確に計算ができなかったりする児童がいるので、計算ドリルやスキルタイムを活用して、できるだけ多くの問題を解き、繰り返し指導していく。間違えた問題は、必ずもう一度やり直すことを徹底して、確実な解答を導きだせるよう指導していく。
量と測定	本校平均正答率は86.2%で県・市に比べて5ポイント以上上回っている。時刻と時間や長さ・重さの内容に大きな課題は見られない。 ○時刻と時間の問題は約90%の正答率で県平均正答率大きく上回りよく理解できていた。重さについても県や市の平均正答率を上回っており、よく理解できている。	・長さや重さの単位については、日常生活でも意識して指導するとともに、授業の中でも体験活動を取り入れていく。 ・文章題自体に苦手意識をもたないよう、文章を読み解くような問題にも取り組むとともに、何を答えればいいのか、どの数値をどう使うのかなど、問題を解きながら指導を繰り返していく。
図形	本校平均正答率は、85.4%で比べて県・市に比べて5ポイント以上上回っている。 ○二等辺三角形の定義や正三角形のかき方もよく理解している。コンパスを丁寧に扱い、図形を正確にかけるよう指導してきた成果であると考えられる。 ●円の直径を表す直線を選ぶ問題に課題が見られる。	・今後もコンパスや定規の扱い方を丁寧に指導し、三角形・四角形の性質を考えながら正確な作図ができるよう指導を徹底していく。 ・具体物を操作させる活動を意図的に取り入れて、円や球に対する見方や考え方を広げていく。
数量関係	本校平均正答率は67.3%で県・市と同等である。 ○時刻表や合計料金から乗船したコースを判断し、その理由を記述する問題では、県の平均を15ポイント以上上回った。 ●式が表している意味を読み取り、説明を選ぶ問題に課題が見られる。	・文章を読み取り立式する際には、言葉や具体物、数直線や図、表などと関連させ、見通しをもたせるように指導してきた。今後も他教科と関連を図りながら、資料を活用して課題解決する力を高める指導を継続していく。 ・ペア学習やグループ学習による学び合いを効果的に取り入れ、友達の考えについても代弁できるような力を育てていく。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	76.2	74.5	72.9
	生命・地球	63.0	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	52.5	51.6	49.7
	観察・実験の技能	60.5	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	80.2	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市や県の正答率よりも高い。 ○「電気の通り道」では、回路を作る際の導線の安全なつなぎ方がよくできており、安全面の指導の徹底や、ソケットを使わないで豆電球に明かりがつくつなぎ方の確認が確実になされていると考えられる。 ●「物と重さ」では、はかりの正しい操作手順について課題が見られる。	・今後も観察・実験においては、安全面の指導を徹底し、その上で自分なりに工夫して観察・実験したり、観察・実験から考察したりする経験を多く積むことができるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市や県の正答率よりも高い。 ○「身近な自然の観察」では、虫眼鏡の正しい使い方がよくできており、安全対策も含め、観察の技能や虫眼鏡の扱いについての指導が徹底していると考えられる。 ●「太陽と地面の様子」では、方位磁針の適切な操作方法に課題が見られる。	・単に知識を記憶するだけでなく、観察・実験の機会を多く設けるとともに、一人一人が確実に器具の正しい操作方法を身に付け、操作し経験できるように指導の工夫を図る。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関しては、特に「家で計画を立てて勉強をしている」や「家で学校の復習をしている」「家でテストで間違えた問題を復習している」等の設問については、県より肯定割合が高くなっている。家庭での学習については、かなり習慣づけがなされており、関心が高いように感じられる。これからも大切にしていきたいと思う。また、教科に関しては、算数や理科を好む児童が多い。

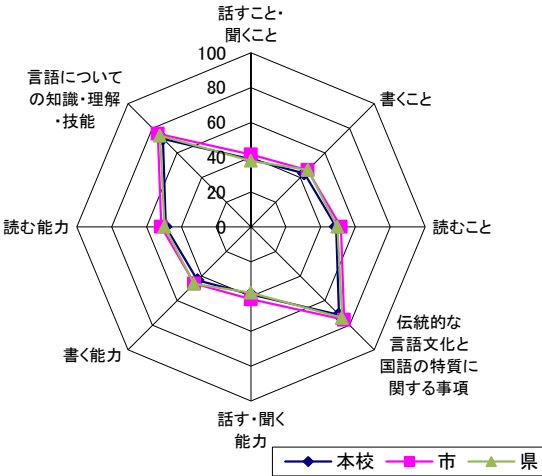
●自分自身のことについては「自分にはよいところがあると思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」などについての肯定割合が県をやや下まわっている。自己肯定感がやや低いと言える。児童のよさを認めることはもちろん、児童同士も自他のよさを認め合えるような雰囲気作りをしていき、自分自身に自信をもたせたいと思う。

○家での生活の様子については、「家の人と学校のできごとについて話をしている」「家の人と将来について話すことがある」「家の人と学習について話をしている」等の設問について、県より肯定割合が高くなっている。今後も、学校と家庭が連携して児童の成長を見守り、よさを伸ばす指導をしていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	38.8	41.6	37.9
	書くこと	43.4	46.1	46.3
	読むこと	48.9	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.5	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	38.8	41.6	37.9
	書く能力	43.4	46.1	46.3
	読む能力	48.9	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	71.5	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

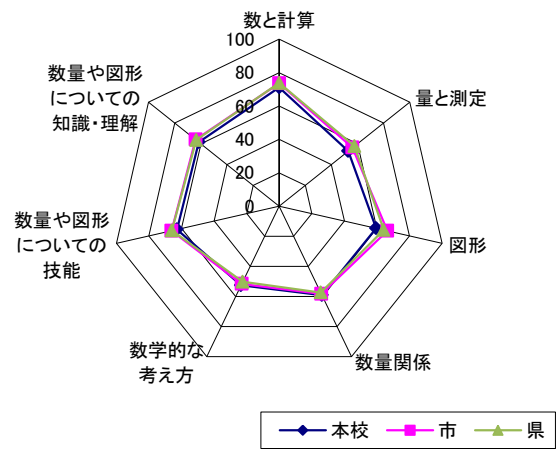
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は38.8%で、市平均より低い。 ○話し合いにおける司会者の役割について理解している。 ●提案者の役割や話し合いの内容を正しく理解し、意見を述べる力が不足している。	・授業のみならず、HRでの1分間スピーチや学活の時間など、話したり聞いたりする機会を多く設け、慣れさせていく。 ・メモを取りながら聞き取りをする機会を設定し、大事なことを落とさずに聞く訓練をしていく。 ・話を聞く際は、聞くポイントを示し、そのポイントを意識して聞けるよう支援する。
書くこと	平均正答率は43.4%で、県・市平均より低い。 ○「です。」「ます。」「(敬体)」「だ。」「である。」「(常体)」を統一しなければならないことは理解している。 ●目的に応じて文章を要約したり、テーマや字数・段落を踏まえて書く力が不足している。	・国語スキルの時間に「視写」を取り入れ、作文用紙の基本的な使い方を身に付けさせる。 ・日常の出来事や身近な話題について意図的に書かせる機会を設け、書くことに慣れさせるようにしていく。
読むこと	平均正答率は48.9%で、県・市平均より低い。 ○段落相互の関係はある程度理解できる。 ●中心となる言葉や文を捉えたり、叙述をもとに登場人物の心情を想像したりする力が不足している。	・「○段落の～という文から—と考える」というように、叙述に戻って自分の考えの根拠となる文章を見つけ出せるよう「叙述に戻る」という指導を継続していく。 ・何が問われているのかをはっきりと認識できるよう、発問を明確に示し、問いの答えが導き出せるように訓練していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は71.5%で、県・市平均より低い。 ○ことわざに対する興味関心があり、ある程度意味を正しく理解している。 ●基本的な漢字の読み書きや文法の理解が低く、定着していない。	・国語スキルの時間に「視写」を取り入れ、文章の中で習った漢字を使えるようにしていく。 ・漢字のテストを継続して行い、配当漢字の定着を図る。 ・活動のふり返りや日記などを書く機会を設定し、文章の中で習った漢字を使えるよう指導していく。 ・家庭学習として新出漢字や新出漢字を使った熟語の漢字練習に取り組ませ、語彙を増やしたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.1	73.6	73.7
	量と測定	52.9	56.2	57.7
	図形	59.6	66.5	64.2
	数量関係	59.2	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	52.6	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	62.8	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	61.5	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

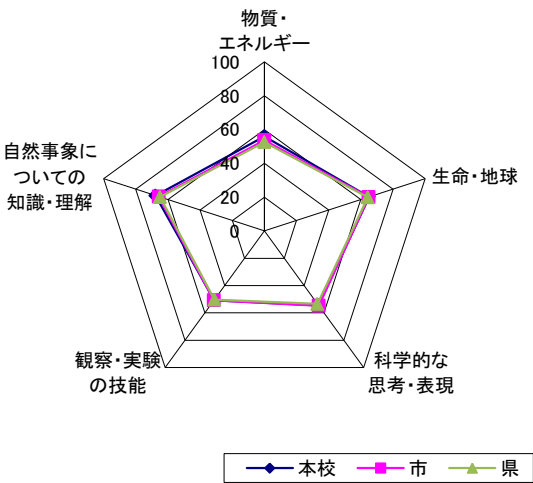
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、71.1%で県・市よりやや下回っている。 ○分数の相対的な大きさを理解しており、数直線上に示された分数の表し方についての問題は県より7.5ポイントも高い。 ●小数のひき算、わり算の計算に課題が見られる。	・小数の基本的な計算につまずきが多く見られるので、今後もTTや習熟度別学習や少人数学習を生かし、個別指導を中心に指導の強化を図っていく。 ・家庭学習でも計算の練習の課題を用意し、家庭の協力を仰ぎながら定着を図っていく。
量と測定	平均正答率は、52.9%で県・市より下回っている。 ○角度の大きさの範囲を求める問題は、県より3.6ポイント高い正答率であった。 ●面積の㎡とcm²の単位の関係の理解が薄く、面積の求め方にも課題が見られる。	・面積の㎡とcm²の単位の理解に当たっては、単位の形式的な操作の指導だけでなく、実感が得られるような具体的操作を意図的に設けて指導するようにしていく。また、他教科とも関連を図りながら、身近にあるものの面積を推察する機会を設けていく。
図形	平均正答率は、59.6%で県・市より下回っている。 ○立方体の展開図を完成させる問題は、立方体を組み立てる体験を通して学習したので、90.4%と高い正答率であった。 ●二等辺三角形とひし形の関係、直方体の辺どうしの垂直な関係の理解については、いずれも県の正答率を下回り、平面図形、立体図形の理解に課題が見られる。	・前年末に学習した図形領域が定着されていない傾向が見られた。立方体の展開図は、組み立てる体験を通して作図した学習が成果を上げたので、直方体においても面と面、辺と辺、面と辺の位置関係を立体模型を用いて1つずつ丁寧に確認する場と時間を設ける。今後は、一人一人に具体物を準備し体験を通して定着を図っていく。
数量関係	平均正答率は、59.2%で県・市よりわずかに上回った。 ○二次元表を読み取り、対象の欄の表す意味を説明する問題が91.8%と高い正答率である。 ●文章問題を解くために、1つの式を立式し、答えを導くことに課題が見られる。 ●四則混合で()のある式の計算の順序を問う問題に課題が見られる。	・生活場面を式に表すような思考を伴う学習に対しては、児童の身近な生活場面を想起させ、簡単な数字を例に取り上げて考えさせるようにする。 ・計算のきまり(交換法則、結合法則、分配法則)が、整数や小数でも同じように成り立つことを復習を交えながら取り組む機会を設ける。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.0	53.7	52.5
	生命・地球	65.1	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	54.6	54.7	53.4
	観察・実験の技能	50.7	50.8	50.3
	自然現象についての知識・理解	67.7	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、56.0%で、県・市を上回っている。 ○水の状態変化(氷、水、水蒸気)についての理解度が高く、県の平均と比べて10点以上高い。 ○電池のつなぎ方とモーターの回り方の関係や、光電池の働きと光の強さの関係の理解度も高い。 ●温度と空気のかさの関係から、考察する設問について正答率が低い。 ●水のあたためり方の理解度は高いものの、金属のあたためり方の理解に課題がある。	・授業中に実験・観察した結果から、何が分かったのかを考えるような場を作り、自分が持っている知識から、考察して記述できるようにしていく。 ・あたためり方が物質によって違うことを理解できるように、空気、水、金属など、それぞれの結果を比べて考察するようにすることで、はっきり違いを意識し、理解できるようにしていく。今後もそれぞれの結果を比べて、結果を示したり、考察したりして、混同して覚えないように、確かな知識・理解につなげていく。
生命・地球	平均正答率は65.1%で、県・市を若干上回っている。 ○星や星座の見える位置と並び方についての理解が高い。 ○動物の様子、位置にとの気温の変化の様子、月の動き方など、理解度が高い。 ●温度計を使った気温の正しいはかり方について課題がある。 ●方位磁針の正しい操作の仕方についても課題がある。 ●理由を説明したり、結果を比べて考察したりする設問については、県の平均を上回っているものの、正答率が低くなっている。	・実際に器具を使って正しく操作する、技能面に課題があると考えられるので、教科書等で実験器具の操作について説明し、整理して覚えるようにさせたり、一人ひとりが実験器具を実際に操作する場をきちんと作ったりして、正しい操作の仕方を理解させていく。 ・実験や観察をして結果を記録するのにとどまるのではなく、それぞれの結果を比較して考察させ、ノートに記述させたり発表させたりして、自分の言葉で説明できる力を養っていく。その際、ペア学習やグループ学習を取り入れ、教え合ったり、討論させたりして自分たちで答えを導き出していけるように学習形態を工夫する。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学校での学習について、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」「先生は学習のことについてほめてくれる。」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」等の設問については、県より肯定割合が高い。

●学校での学習について、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」の設問については、県より肯定割合が低い。

・学校での学習については、積極的に取り組んでいる姿が見られる。しかし、分からないところを先生に聞くことができる、の設問の肯定割合が低いので、分からないことを分からないと言える雰囲気を作り、児童が分からないところを素直に質問できるようにしていきたい。

○家族のことについて、「家の人としょうらいのことについて話すことがある。」の設問については、県より肯定割合が高い。

●家族のことについて、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」の設問については、県より肯定割合が低い。

・家族で話合う機会が多くあり、良好な関係が築けていると思われる。学校と家庭が協力して、児童のよさをほめていけるように学級懇談会等で保護者にも啓発を図っていきたい。

○学校での様子について、「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」の設問については、県より肯定割合が高い。

○自分自身のことについて、「自分には、よいところがあると思う。」「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」

・学校生活や家庭生活で、児童が自分に自信を持ち、前向きに生活していることがうかがえる。今後も当番活動や係活動、委員会活動の充実を図り、役割を果たして所属意識を高めたり、お互いの良さを認め合う活動を学級活動や帰りの会等で行い、自己肯定感を更に高めたりしたい。